

## <R2年度 獣害対策 イノシシ狩猟活動について>

レポート作成者：出雲崎町農業委員会事務局 黒崎

ここ近年全国的に耕地への鳥獣害による被害が多数発生している。出雲崎町も例外ではなく特に「イノシシ」による水稻への被害は毎年拡大しつつあり、農業者は電気柵の設置等による対策で大変苦慮している。ここ1～2年でイノシシの繁殖も伸びているようであり、猟友会も相当数を駆除しているが何分少数人数の体制であるため厳しいものがある。

そこで出雲崎町農業委員会では猟友会の活動に賛同するため、委員が罾による狩猟免許を取得し数回に渡る講習を受け、イノシシの狩猟罾の設置を実施しました。

### 【狩猟罾設置作業】（4月24日）

猟友会員の協力の基、小木の城の山中沿いにあるイノシシの通り道であるポイント（吉水地内）を案内してもらい、まず罾設置の実演を見せてもらうことになった。罾は「くくり罾」を使用。くくり罾とは、罾を踏むと本体の中に仕掛けられているワイヤーにより足が締まる仕組みであり、それによって足がくくられて捕まえられるものである。



〔小木の城山の道路を移動〕



〔山中に入り案内してもらう様子〕



〔設置に関する指導の様子〕



〔罾の設置個所を探る様子〕

イノシシは驚く程嗅覚が鋭く犬と同等かそれ以上と言われている。視力は低く、鼻で餌や危険を察知する特性があり警戒心も非常に強い。イノシシの通り道に人間が足で踏んだだけで匂いを察知し近寄らなくなる為、通り道を足で踏まないよう指導を受けた。



〔ワイヤーの取付け箇所を探る様子〕



〔ワイヤーを取付ける様子〕



〔本体を設置する様子〕



〔罖を隠す様子〕



〔設置完了〕



〔罖による注意喚起等設置〕

まず罖の設置ポイントとイノシシの足をくぐるワイヤーを固定する場所を探った。ちょうど罖の設置ポイントとなるイノシシの通り道の近くにしっかりとした杉の木があったのでその場所に決めた。イノシシは個体が大きいと体重が 100 kg 以上あり力も相当に強いため、ワイヤーを固定する物もそれに耐えられるものでなければならない。

ワイヤーもしっかりと縛り付けるように金具で固定し、先端の輪っかを罖本体へ伸ばして行き隠すように据え付ける。一方の本体の設置は地面に穴を掘り適した高さに設置する。くり罖は本体の中に置く踏板を獲物が足で踏むことで、ワイヤーと一体になって縮んでいる押しばねが解除される。その反動で本体に隠されているワイヤー（輪っか）を引っ張り、さらに獲物が逃げ出す反動も利用してくりあげる（締めつける）仕組みとなっている。仕上げは不自然さが無いよう辺りの雑木等で罖を隠し、イノシシに悟られないようにする。また注意喚起プレートの設置は必須である。

農業委員、推進委員の二手に分かれ委員による罾の設置を試みた。指導を受けながら程よい感じに仕上がった。仕掛けた罾は4つ。あとはイノシシが掛かるのを待つ。



委員2人ペアでローテーションを組み、罾の見回りを行う事にした。およそ3日置きで行い始めてから早3週間が経過したがまだ掛かっていない。通り道に委員等の匂いが付いたのか足跡すら見られない。猟友会の方の話によると雨が降れば匂いも消えるとの事である。その間に雨も降った日もあったがおよそ1か月後ようやくイノシシの足跡が見られた。しかし罾を避けている様子である。その後も根気よく見回りを続けがこれと言った変化も見受けられないことにより、罾の設置個所の変更も考えた。

狩猟設置許可期日の6月30日、見回りに行った委員から連絡が入り、仕掛けた罾の1つに体長およそ1.2mの子供のイノシシが掛かっていた。



〔捕獲したイノシシ（写真中央）〕



〔イノシシが暴れた跡〕

逃げるために相当暴れていたのか疲れ切った様子でしゃがんでいたため委員が近寄って確認するとすぐさま暴れだした。猟友会に連絡して仕留めてもらい後処理をお願いした。イノシシの足をくくっていたワイヤーはかなり擦り減っていたが辛うじて切れることなく踏ん張っていた。それにしてもほぼ雑草木で覆われていた山肌がまるで隕石が落ちた後のように綺麗に窪んで木の根っ子が露出し、土も耕したかのように柔らかくなっている。罾のパーツも一部欠損し探しても一向に見つけることが出来なかった。子供のイノシシと言えど凄まじいパワーである。猟友会の方によると罾を仕掛けた場所や仕留めた場所により、又、イノシシが大きいと後処理に相当な労力が必要になるとの事である。道の無い山中では仕留めてから引っ張って降りるか登るしかなく、又、埋める穴を掘るにも固くて掘りにくい山肌を大きく掘らなければならない。罾を仕掛けてから捕獲し、仕留めてから処理という一連の工程の中、相当な精神力と腕力及び忍耐が必要になると思われる。一筋縄では行かない作業である。

## 《最後に》

全国の多くの農業者が鳥獣害対策に苦慮している中、イノシシは増える一方である。罾の設置講習等で知り得た知識であるが、イノシシが人里に出入りするのには地域の環境も影響するとされており、野生鳥獣は豊富に餌があり安心して住むことのできる場所を求めている。放置果樹などの残渣が誘因を引き起こしているという。中山間地は沢の耕地が多く、山裾には原野等が広がっている箇所が多くあり鳥獣が隠れる場所がたくさんある。放置果樹は収穫しないのなら伐採すること、また、原野等の藪を切り払い見通しをよくするなど、山と里（集落等）に緩衝帯を作ることが大事とされている。

最近のイノシシは住宅街にも頻繁に出入りするようになってきている今、農業者だけの問題ではなく地域全体の問題として住民一人一人が出来ることから取り組めるようになればと思う。微力ではあるが当農業委員会は今後も罾の設置活動を通して少しでも鳥獣害対策に貢献できるよう活動していきたい。